

## ナショナルバイオリソースプロジェクト

### 中核的拠点形成プログラム（オオムギ）平成20年度運営委員会議事要旨

日時：平成20年9月2日 13:30から16:30

場所：岡山大学資源生物科学研究所 小会議室

参加者：

委員長	掛田 克行	三重大学生物資源学部 准教授
研究代表者	武田 和義	岡山大学資源生物科学研究所 教授
課題実施者	佐藤 和広	岡山大学資源生物科学研究所 准教授
委員	最相 大輔	岡山大学資源生物科学研究所 助教
委員	武田 真	岡山大学資源生物科学研究所 教授
委員	辻本 壽	鳥取大学農学部 教授
委員	小松田隆夫	農業生物資源研究所 上級研究員
委員	木原 誠	サッポロビール(株)バイオリソース開発研究所チーム長
文部科学省	平賀 勸	ライフサイエンス課 担当官
オブザーバー	加藤 鎌司	岡山大学農学部 教授

配付資料：

資料1 平成19年度末NBRP評価報告書（抜粋）

資料2 平成19年度成果報告書、追加経費申請書

資料3 平成20年度業務計画書（オオムギ）

資料4 ナショナルバイオリソースプロジェクトゲノム情報等整備プログラム申請書  
概要（様式1）

資料5 同上不採択通知

資料6 実費徴収に関するアンケート

資料7 データベース整備アンケート

資料8 額の確定調査（技術調査）の質問事項

資料9 実費徴収の実施に向けた検討について

参考資料1 岡山大学資源生物科学研究所大麦・野生植物資源研究センター運営委員会議事要旨（8月27日開催）

参考資料2 科研基盤（A）国際学術研究による収集状況

参考資料3 Global Crop Diversity Trust 報告書 draft より抜粋

参考資料4 遺伝研データベースアクセスログ

## 議 事

研究代表者から挨拶があった。

### 報告事項

上記配付資料のうち資料1～8、参考資料1～4について課題実施者より説明した。その概要は以下の通りである。NBRP 第一期のプロジェクト全体の評価およびオオムギ中核的拠点形成プログラムに関する評価の説明、昨年度の事業内容の説明、本年度の業務計画、文部科学省からの質問事項（アンケート）およびそれに対する回答を課題実施者が報告した。さらに、岡山大学資源生物科学研究所大麦・野生植物資源研究センターの運営委員会の議事内容、科研国際学術によるアゼルバイジャンでの麦類収集および今回参加できなかった遺伝研情報センター山崎委員からデータベースアクセスログの報告があった。オオムギのデータベースアクセス数がリソース全体の中で高水準であることが報告された。

### 協議事項

#### 1. 今後の NBRP オオムギリソースの運営方向について

- (1) ユーザー数の拡大について：農水省関連の独立行政法人のオオムギ育種研究への提供増、基礎研究の研究者からのアプローチをしやすいような工夫が必要であることが指摘され、継続検討することとした。
- (2) リソース情報の高度化について：系統についてのマーカー情報や DNA サンプルの提供、TILLING サービスの提供などもユーザーの拡大に効果的であるとの議論があった。NBRP の基盤整備プログラムやゲノム解析プログラムに申請しても不採択となった経緯もあり、現状で NBRP の事業内容に追加することは難しいと判断していると課題実施者から回答があった。
- (3) コムギリソースとの相互交流について：データベースのリンク、ゲノム情報の共有などが重要であると指摘された。cDNA 情報や公開されたマップ情報など情報センターとも協議して今後充実させていくことが確認された。
- (4) ミュータントの充実によってアラビドプシスの研究者等を引きつけることが重要であると指摘された。また、若い世代にオオムギのリソースを使ってもらうことも後継者育成を含めて重要であると指摘された。これに伴ってオオムギの栽培方法など、プロトコルを整備して公開することが提案され、検討することとした。なお初心者向け HP は委員会後暫定版を作成して閲覧可能となっている。  
(<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/barley/jikken.html>)
- (5) リソースのバックアップ体制について：生物研ジーンバンクに重要な系統リソースがバックアップされているものの、配付対象となっていない系統リソース、DNA リソースについては BAC ライブラリーを除いてバックアップ体制のないことが紹介された。

#### 2. 国際的なオオムギの研究内容とリソースとの関連について

課題実施者によって参考資料3によって当プロジェクトの系統リソースの国際的な位置づけが紹介された。また、国際オオムギゲノムシーケンシングコンソシアムのポス

ターによって当プロジェクトのゲノムリソースのゲノム解析への貢献が紹介された。

- (1) 岡山大学のオオムギ系統リソースは国際的に見てよく整備されており、世界第五位の重要性を持ち、系統遺伝資源の担当者の中で高く評価されていることが確認された。
- (2) オオムギのゲノム配列解析は今後3－4年で終了することが予定されており、その中で、当プロジェクトの有する国産系統によるゲノムリソースは国際的に見て多様性解明、遺伝子研究、産業利用などの面から重要であることが確認された。
- (3) NBRP が貢献すべき世界水準の基礎研究とは具体的にどのような研究を指すかについて議論があり、その一例として野生種を含めた多様性研究の意義等について文部科学省ライフサイエンス課、平賀担当官より説明があった。他の生物リソースは遺伝子同定を目的とする場合が多いものの、産業植物であるオオムギでは多様性そのものの研究も重要であるとの指摘があった。

### 3. 実費徴収について

資料9に基づいてライフサイエンス課平賀担当官より説明があった。実費徴収には資金確保や最低限の手数料および送料を負担してもらわねらいがあることが説明された。

委員会の議論のなかでは、送付に関わる費用負担はやむを得ない部分があるものの、種子の送付は国際的に無償が通例であり、特に途上国からの実費徴収は適切ではないことが指摘された。また、リソースごとにカテゴリーを分けて課金の有無を決めることや、国内・国外を分けて課金を考えるほうがよいとの意見もあった。

配付点数が少ない場合にシステムを構築することが会計的にマイナスに働く可能性が指摘された。例示されたカード決済は公的機関での決済に適切ではなく、特に多額の経費負担をカード決済でまかなうことは無理であるとの意見があった。

### 4. 運営委員会の構成について

オオムギ育種を担当する独立行政法人の研究者、イネおよびアラビドプシスの研究者等を加えることが提案され、次回へ向けて継続協議とすることとした。育種以外の専門家にも委員の依頼を検討すべきとの意見もある一方で、研究領域の大きく異なる委員の参加は慎重にするべきであるとの意見があった。

その他

研究代表者から定年のため次年度から交代する旨挨拶があった。

以上